

日本のソヴェト攻撃の可能性

ロシアの国際的地位を決定している第二の矛盾は、日本とアメリカの対抗である。数十年間のこの両国の経済的發展は、両強国が太平洋とその沿岸の支配をめざして死にものぐるいのつかみあいをするをまぬかれがたくしている、火のつきやすい材料をおびただしく下ごしらえしてきた。極東の外交および経済の全史は、日米間の差しせまっている鋭い紛争を未然にふせぐことは、資本主義の基盤のうえでは、不可能だということを、まったく疑う余地のないものにしてている。ドイツにたいする日本とアメリカの同盟によって、いま一時おおいかくされているこの矛盾が、日本帝国主義のロシア攻撃をおくらせている。ソヴェト共和国にたいして開始された戦役（ウラヂヴォストック上陸、セミヨーノフ匪賊団の支持）は、ぐずついている。なぜなら、日米間のかくされた紛争が公然の戦争になる恐れがあるからである。いうまでもないことであるが、帝国主義列強間の結束は、どんなにゆるぎのないものにみえようとも、神聖な私的所有の利益とか、利権にたいする神聖な権利などがそれを要求するときは、数日にしてくつがえされかねないことは、十分にありうることだし、われわれもそれを忘れてはならない。また、おそらくほんのちらりと火花がひらめくだけで、列強の現存の結束を爆破してしまうであろう。そうなれば、ここにあげた矛盾は、もうわれわれの守護に役立つものとなることはできないであろう。

しかしいま特徴づけた情勢は、われわれの社会主義の孤島を、荒れくるう暴風雨のなかで持ちつづけることができる理由を説明すると同時に、この情勢がそれほど不安定なものであり、時としては、あわや大波がこの島をのみつくしたとさえ見えて、ブルジョアジーを狂喜させ、小ブルジョアジーを狼狽させる理由を説明している。

この情勢の対外的な外被、対外的な表現は、一方ではブレスト条約であり、他方では中立国にかんする慣習と法規である。

燃えさかっている国際紛争に当面すると、条約の値うち、法規の値うちは、諸君のご存知のように、一片の紙以上のものではない。

これらの言葉は、帝国主義の対外政策の厚かましきの見本として引用され、おもいだされるならわしであるが、厚かましきは、これらの言葉にあるのではなく、容赦のない、情け容赦のない、どんな苦痛をあたえることになろうと容赦のない帝国主義戦争にあるのであって、すべての講和条約とすべての中立法規は、この戦争でふみにじられてきたし、現にふみにじられており、これからも、資本主義が存在するかぎり、ふみにじられるであろう。

第 27 卷『全ロシア中央執行委員会とモスクワ・ソヴェトの合同会議』P374～375

この新聞報告は、1918 年 5 月 15、16 日の『プラウダ』に発表された。

ポイント

ロシアの国際的地位を決定している第二の矛盾は、日本とアメリカの対抗である。数十年間のこの両国の経済的發展は、両強国が太平洋とその沿岸の支配をめざして死にものぐるいのつかみあいをするをまぬかれがたくしている、火のつきやすい材料をおびただしく下ごしらえしてきた。極東の外交および経済の全史は、日米間の差しせまっている鋭い紛争を未然にふせぐことは、資本主義の基盤のうえでは、不可能だということを、まったく疑う余地のないものにしてている。